



第3回国際コンファレンス 「金融の安定と金融部門の監督—過去10年の教訓と今後の対応」

共催：金融庁金融研究研修センター（FRTC）
慶応義塾大学経済学研究科・商学研究科連携
21世紀COEプログラム
国際通貨基金アジア太平洋地域事務所（OAP）

平成19年12月17日 三田共用会議所・東京

プログラム

アジア諸国は、金融危機を教訓に、過去10年間、金融システムを大幅に強化し、規制・監督の枠組みはアジア全域で大きく改善してきた。一方、競争は現在、ますます激化し、デリバティブや証券化を巡る新たな金融手法が次々に生まれている。金融市場のこうした急速な変化、さらには、アジアの新興市場のダイナミズムに惹かれ発生した大規模な資本流入は、新たな課題を生み出している。こうした課題に対し、監督当局はBasel IIの導入に向けた検討を進める等、監督枠組みの強化で対応を図っている。

本コンファレンスでは過去10年に進められた金融改革の取り組みを振り返り、この期間、金融監督・検査がどう変化してきたのかを議論する。また、アジアの金融制度は国際金融環境の変化にどれだけ対応できる準備ができているのか、Basel IIの効果的実施を含め、今後の対応についてのディスカッションが行われる予定。

9:30-9:45 受付

10:00-10:10 開会の辞

佐藤隆文 金融庁長官

(総合司会：吉野直行 金融庁金融研究研修センター長／慶応義塾大学経済学部教授)

10:10-12:00 セッション1：金融危機以降の金融制度改革

アジア金融危機以降10年の金融改革を振り返る。危機の引き金となり、同時に、危機を深刻化させた原因としても考えられる金融制度の脆弱性や、そうした脆弱性を克服するための取り組みも議論する。ケーススタディとしてタイにおける金融改革の事例を取り上げる。各国での経験を紹介し、これまでの取り組みの評価を行う。

議長：ウィリアム・A・ライバック 韓国金融監督院（FSS）特別顧問

「金融危機以降の金融制度改革」

報告： ジョナサン・フィクター 国際通貨基金（IMF）金融資本市場局次長

「金融危機以降の金融制度改革：タイの事例」

報告： クリク・バニックル タイ中央銀行（BOT）総裁補

セッション1へのコメント

アンワール・ナスティオン インドネシア会計検査院（BPK）総裁
藤井眞理子 東京大学先端科学技術研究センター教授
（金融庁金融研究研修センター特別研究員）

12:00-1:30

昼食

1:30-3:45

セッション2：金融危機以降の金融監督・検査

危機の以前から以降で期間を分け、それぞれの期間における金融機関監督・検査状況を議論する。資産区分や速やかな是正措置の施行を規定するルール・規制等の制度的枠組みは構築されたが（枠組み自体は危機の以前から存在していた可能性もある）、そうした枠組みが有効に機能するか否かは、金融機関が規制を遵守するか、あるいは監督当局が規制遵守違反や脆弱性を特定し、是正措置を講じるかに左右される。監督当局が抱える人員や能力の不足といった問題は各国にとって重要な課題となっており、今後も重要な課題となり続けるだろう。

本セッションでは日本、韓国、マレーシア、フィリピンといった域内諸国の経験からどういった教訓が得られるかを議論し、監督措置の実施状況および実施にあたり取り組むべき課題を話し合う。

議長： 知原信良 金融庁総務企画局参事官

「金融監督・検査：日本の事例」

報告： 五味廣文 前金融庁長官

「金融監督・検査：韓国の事例」

報告： イ・ジャンユン 韓国金融監督院（FSS）院長補

「金融監督・検査：マレーシアの事例」

報告： ノル・シャムシア・ユヌス
バンク・ネガラ・マレーシア（BNM）総裁補

「金融監督・検査：フィリピンの事例」

報告： ネストル・A・エスペニャ・ジュニア
フィリピン中央銀行（BSP）副総裁

セッション2へのコメント

W・ジェイソン・ジョージ 国際決済銀行（BIS）
アジア太平洋地域代表駐在事務所シニア金融部門スペシャリスト

3:45-4:00

コーヒースタイル

4:00-6:00

セッション3 金融環境の変化への対応（パネル・ディスカッション）

金融部門監督当局が現在の金融環境で直面する課題を議論する。金融機関のリスク管理手法は改善しているが、一方で現在も続く資本の大規模な流入によって流動性は地域全体で高まっており、資産価格の高騰がおきている。さらに、世界の流動性が今後大きく転換する可能性もある。こうした状況から次のような問いが生まれる――

「現在の金融制度はそうした転換に耐えうるのか」、「監督当局への情報提供は十分になされているのか」、「監督当局には金融制度の新たな脆弱性を特定し、対策を講じる準備ができているのか」。また、金融商品や市場がますます複雑化する中で、金融機関や監督当局は制度に潜むリスクを十分理解し、評価できているのか。本セッションでは、金融の不安定化につながる主要リスクについて議論をおこなう。

加えて、脆弱性の減少や金融制度の強化のためにとられる措置について、監督の枠組みや実施といった観点から、パネリスト間で意見を交換する。具体的には **Basel II** の実施に焦点を当て、新たな金融環境で、**Basel II** によって監督制度の効果がどれだけ高められるのか、その可能性を議論する。

議長：伊藤隆敏 東京大学大学院経済学研究科(兼)公共政策大学院教授

パネリスト：

河野正道 金融庁監督局審議官

サイモン・L・トッピング

香港金融管理局（HKMA）エグゼクティブ・ディレクター

ウォン・イット・ファン DBS 銀行 マネジング・ディレクター

ピーター・テバット フィッチ・レーティング・香港 シニア・ディレクター

6:00-6:15

会議総括及び閉会の辞

有吉章 国際通貨基金アジア太平洋地域事務所（OAP）所長

コンファレンス終了

6:30-

レセプション

挨拶：丸山純一 金融庁審議官